

---

---

# 京都府・学力レポート 2011

(要約版)

## 京都府学力診断テストを活用した学力の経年比較に関する調査研究

---

---

京都府小学校基礎学力診断テスト開始後 20 年の節目に当たり、当センターでは蓄積された過去のデータとテスト問題を活用して、問題難易度や学力を年度間比較する調査研究（平成 22 年 6 月着手）を行い、標題の報告書にその方法と結果をまとめた。このリーフレットはその要約である。



— 小学校 4 年算数のテスト問題 平成 3(1991)～23(2011)年度 —

---

この調査研究では相当数の児童生徒を対象とした調査テストの実施を必要としました。ご協力いただきました京都府内の市町(組合)教育委員会，小中学校に深く感謝致します。

---

平成 23 年 6 月

京都府総合教育センター

## 問題と目的

調査研究の目的	「京都府(基礎)学力診断テストが測定する学力」の経年推移を把握する。
比較の必要性	学力向上策の検証・改善のためには、学力の経年比較が重要である。
学力把握の現状	国内には、小中学校の児童生徒の学力を経年で追う報告は非常に少ない。
京都府の強み	平成3年度に自作の学力テストを小学校で初めて実施し、今日まで継続してきた。

## 方法

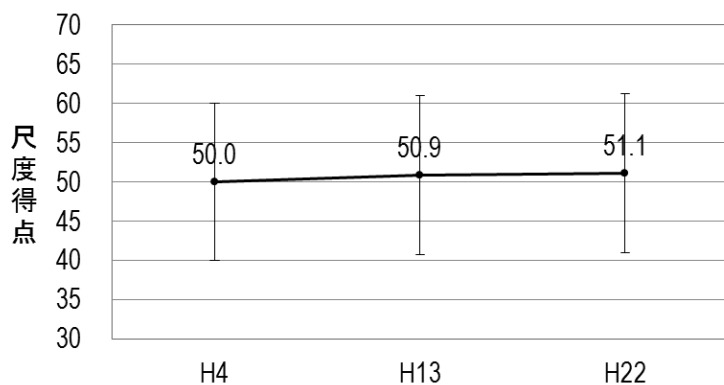
比較対象年度	小学校 9年間隔 H4(1992)－H13(2001)－H22(2010) 中学校 3年間隔 H15(2003)－H18(2006)－H21(2009)
学力テスト概要 (全員受検)	小学校 国語・算数, 小6対象, 4月実施, 小5までの内容 中学校 国語・数学・英語, 中2対象, 10月実施, 中2・1学期までの内容
比較の手法	1) 比較対象とした過年度テスト問題から構成された調査テストを作成 2) 児童生徒を対象に調査を実施し, 正誤データを収集 3) 2) で得たデータをモノサシとして, 尺度を共通化(項目反応理論による)
調査テスト 問題数	小学校 国語 13/30－13/30－13/25 計 39/85, 算数 14/30－14/25－14/25 計 42/80 中学校 国語 16/25－16/25－10/25 計 42/75, 数学 17/25－17/25－17/25 計 51/75 英語 14/30－14/30－11/25 計 39/85
調査参加者	平成22(2010)年度の小学校5年生, 平成22(2010)年度の中学校2年生
調査協力校	京都府内17市町(組合)教育委員会から50校(小学校30, 中学校20)
調査時期	小学校:平成23(2011)年1～3月, 中学校:平成22(2010)年11・12月
使用した データ数	比較した受検者(人) 調査データ(人) 小学校 H4:約14,600－H13:約11,300－H22:約11,500 国709, 算775 中学校 H15:約10,300－H18:約9,800－H21:約9,500 国557, 数421, 英367

学力値の換算(尺度得点)  
全受検者の学力値は概ね-4から+4の範囲で推定される。解釈しやすくするために比較初年度(小H4, 中H15)を基準年度とし, 初年度の受検者の平均が50点, 標準偏差が10点となるように換算した。これを「尺度得点」と呼ぶ。

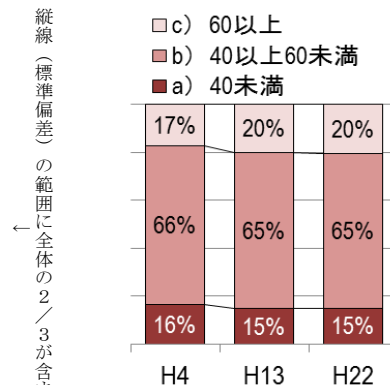
尺度得点は標準化されているので, 全教科とも比較初年度は, 平均50点, 標準偏差10点で揃っている。また, 学力層についても, 比較初年度の割合は, 全教科とも, 学力a層(40点未満)が初年度受検者の約1/6, 学力b層(40～60点)が約2/3, 学力c層(60点以上)が1/6で揃っている。平均・学力層とも, 比較初年度のこれらの値を基準として, 以後の年度の推移を見ることになる。

## 結果と考察

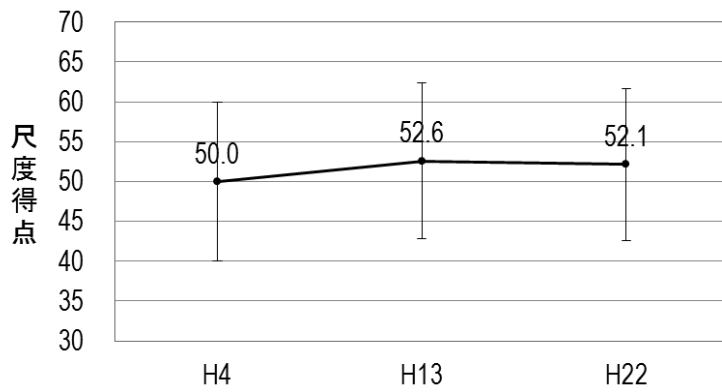
【小学校】H4から18年経過したH22においても, 学力は低下していない。むしろ上昇した。



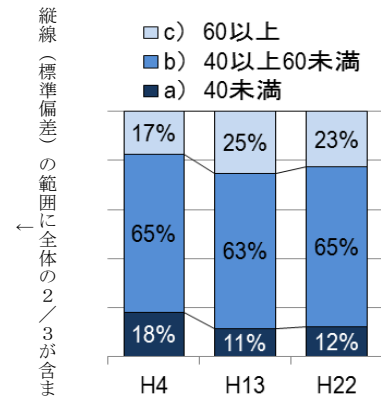
国語:平均値の推移



国語:学力層の推移



算数：平均値の推移



算数：学力層の推移

◇H4・H13年度の比較：小1～小5の授業時数に差がないにもかかわらず、H13年度の平均値が高い。

→京都府小学校基礎学力診断テストを継続して実施したことによる3つの効果

- ①テスト問題による達成目標の明確化 ②指導事項の脱落を防止 ③資料・講座による自校課題把握

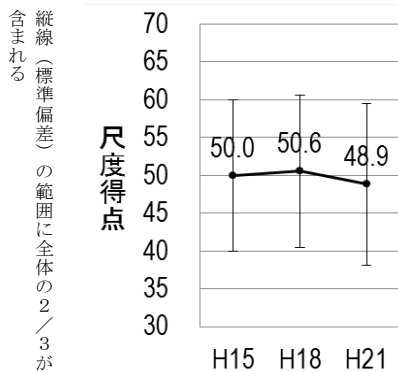
◇H13・H22年度の比較：授業時数減少(国1391→1202, 算836→719)にもかかわらず、差がない。

→「子どものための京都式少人数教育」による3つの効果

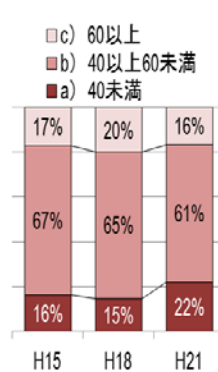
- ①活用方法の選択 ②加配教員による教科指導の牽引 ③研究協議会・発表会による実践の府内波及

**【中学校】平成15年度と平成18年度の間には差はないが、平成21年度の国語・英語は低い。数学は同程度。教科による差はあるが、平成21年度のa(40未満)層の割合が増加傾向。**

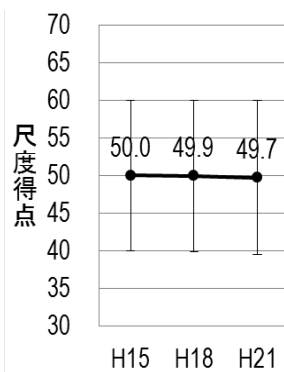
※小学校調査の9年間隔18年間に対して、中学校は3年間隔6年間(1/3)と短いことに注意。



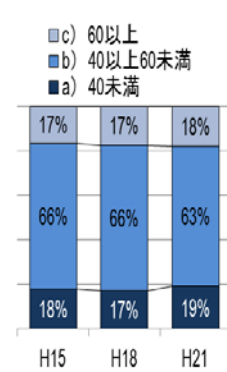
国語：平均値の推移



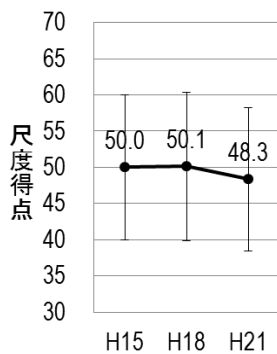
国語：学力層の推移



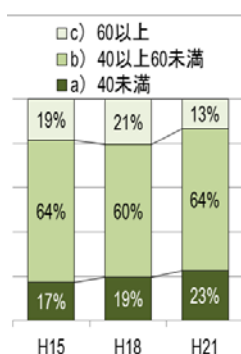
数学：平均値の推移



数学：学力層の推移



英語：平均値の推移



英語：学力層の推移

◇「子どものための京都式少人数教育」は、英語より数学に効いている。

◇H15・18年度に比べ、H21年度a層が高比率となっていることへの対策の必要性

→テストは中学校前半の学力を測定している。3学年になればa層の割合は増すと推測される。

「振り返りスタディ」等の事業や学生・地域ボランティアの支援など、外部の力も活用して、家庭学習の定着を含めた、入学直後から基礎基本を徹底して習得させる総合的・継続的な対策が望まれる。また、生徒指導上の影響も背景にあると考えられるので、その対策も併せて必要。

# 資料

国										京都府									
完全学校週5日制への移行 小学校学習指導要領の改訂 中学校学習指導要領の改訂 相対評価から目標標準評価 PISA 全国学力・学習状況調査 定数改善 年度					小学校					中学校					年度 施策等				
					府学力診断テスト 4月実施	調査対象年度児童■ H4 H13 H22	授業時数 小1 ↓ 小5 合計	子どものための 京都式少数人数教育 実施校数 (京都市を除く)		府学力診断テスト 10月実施	調査対象年度生徒■ H15 H18 H21	授業 TT	子どものための 京都式少数人数教育 実施校(時)数 (京都市を除く)						
					国算	少人数授業/TT	指導補助 低学年 小1 小2			学年進行	学年進行	学年進行	少人数授業/TT	英数 少人数 数	全 中 学 1 年 英				
学校週6日制	S52告示			S61(1986)												S61			
	H元告示 中学校学習指導要領			S62(1987)		小1	272 136										S62		
				S63(1988)		小2	280 175										S63	京都国体	
				H元(1989)		小3	280 175										H元		
				H02(1990)		小4	280 175										H02		
				H03(1991)		第1回	小5	210 175									H03		
	第二土曜日 第二・四土曜日	H元告示 中学校学習指導要領			H04(1992)		第2回	小6	1322 836								H04		
					H05(1993)		第3回										H05		
					H06(1994)		第4回										H06		
					H07(1995)		第5回										H07		
					H08(1996)		第6回	小1	306 136	← 同じ児童生徒 →		小1						H08	
					H09(1997)		第7回	小2	315 175			小2						H09	
				H10(1998)		第8回	小3	280 175			小3						H10		
				H11(1999)		第9回	小4	280 175			小4	小1					H11		
				H12(2000)		第10回	小5	210 175	授業 TT	学級	小5	小2	授業 TT	学級			H12		
				H13(2001)		第11回	小6	1391 836	7次改善		小6	小3	7次改善			H13	学力テスト10年間のまとめと学力充実の方策		
完全学校週5日制	H10告示 中学校学習指導要領			H14(2002)		第12回		83		中1	小4	小1	51		H14	『京のこども、夢・未来』プラン21			
				H15(2003)		第13回		104 57	小1 小2 補助 補助	第1回	中2	小5	小2	65 16	中1 中1 数 英	H15			
				H16(2004)		第14回		159 28	81 87	第2回		小6	小3	84 11	(時間数)	H16			
				H17(2005)		第15回	小1	272 114	132 41	83 77	第3回		中1	小4	80 16	133 234	H17		
				H18(2006)		第16回	小2	280 155	137 37	92 80	第4回		中2	小5	81 18	128 199	H18		
				H19(2007)		第17回	小3	235 150	132 43	72 80	第5回			小6	81 20	148 179	H19		
				H20(2008)		第18回	小4	235 150	124 64	84 66	第6回			中1	81 28	152 153	H20		
				H21(2009)		第19回	小5	180 150	120 72	85 84	第7回			中2	79 25	192 159	H21		
				H22(2010)		第20回	小6	1202 719	114 69	74 83	第8回				78 26	147 185	H22		
				H23(2011)		第21回			(集計中)		第9回				(集計中)		H23	京都府教育振興プラン	

※表は平成23(2011)年5月20日現在

小 中		学習指導要領改訂の変遷	
S36 S37	実施	教育課程の基準としての性格の明確化	道徳の時間の新設/系統的な学習の重視/等
S46 S47	実施	教育内容の一層の向上(教育内容の現代化)	時代の進展に対応した教育内容の導入/算数に集合
S55 S56	実施	ゆとりある充実した学校生活の実現(学習負担の適正化)	各教科等の目標・内容を中核的事項に絞る
H04 H05	実施	社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成	生活科の新設/道徳教育の充実
H14 H14	実施	基礎・基本を身に付けさせ、自ら学び自ら考える力など「生きる力」を育成	教育内容の厳選/総合的な学習の時間の新設
H23 H24	実施	「生きる力」の育成, 基礎的基本的な知識・技能の習得, 思考力・判断力・表現力の育成のバランス	小学校外国語活動の導入

子どものための  
京都式少数人数教育

「教師力」向上のための指針  
学校改善支援プラン

振り返り  
スタディ